

## 第2次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定 にかかると団体ヒアリング実施報告書

### 1 実施の目的

第2次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にあたって、市内に組織されている福祉関係団体等の活動や活動通じて感じる市内の状況、今後の方向性、福祉施策についての意見等を把握し、計画策定の基礎資料とするためにヒアリングシートを送付して回答いただきました、また回答いただいた団体の中から後日グループヒアリングを実施しました。

### 2 ヒアリングシート送付対象

対象	ヒアリング方法	ヒアリングシート
市内で活動するボランティア団体等	シートの郵送配布・ 郵送回収	シート配布回収・聞き取り
分類	※団体数（回収数）	
高齢者	5団体（5）	
子ども・子育て	6団体（5）	
障がい	9団体（8）	
まちづくり	9団体（8）	
文化・芸術	8団体（7）	
防災・防犯	7団体（7）	
その他	7団体（7）	
合計	50団体（47）	

※団体数は、第6次長久手市総合計画等の計画策定にあたり実施した団体23団体を含む

### 3 グループヒアリング

対象		グループヒアリング方法
ヒアリングシートを回収したボランティア団体等で実施日に参加した15団体(32名)		ヒアリングシートを基に聞き取り、意見の聴取。
分類	参加団体(参加人数)	実施日
高齢者	2団体(3名)	平成30年3月21日(水)
子ども・子育て	2団体(2名)	平成30年3月22日(木)
障がい	1団体(14名)	平成30年4月27日(金)
まちづくり	3団体(5名)	平成30年3月17日(土)
文化・芸術	2団体(2名)	平成30年3月16日(金)
防災・防犯	2団体(2名)	平成30年3月21日(水)
その他	3団体(4名)	平成30年3月22日(木)

### 4 ヒアリング項目

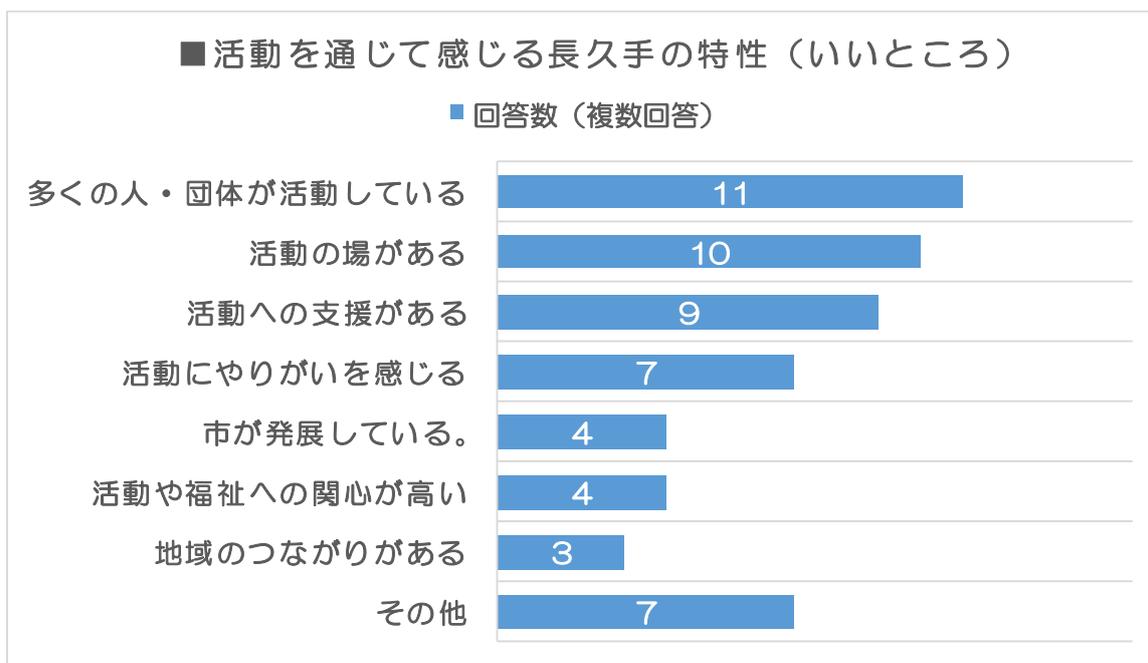
ヒアリングの項目は、以下のとおりです。

- (1) 活動を通じて感じる長久手市の特性(いいところ)
- (2) 活動を通じて感じる長久手市の特性(課題)
- (3) 10年後の理想のまちの姿について
- (4) 10年後の団体の理想の姿について
- (5) 今後、団体として取り組んでいきたいこと

## 5 ヒアリング集計結果

### 問1 活動を通じて感じる長久手の特性（いいところ）

「多くの人・団体が活動に取り組んでいる」が11件と最も多く次いで「活動の場がある」が10件、「活動に対する支援がある」が9件となっています。



#### 【活動を通じて感じる長久手の特性（いいところ）具体的な回答（抜粋）】

##### ○多くの人・団体が活動している

- ・ 色々なボランティアの人達が大勢いらっしゃるという事。優しい人達が見える事。まだまだ田舎の良い所が残っている事。慰問に行くと喜んで下さり、勇気をもらい又行こうという気持ちになります。
- ・ 大勢の人が市民活動に参加しているところ。ただ、地域（前熊）的に地の人が多いので、横のつながりが密である。
- ・ 市民の平均年齢が若く、それを前提にしたまちづくり。若い市民や学生もまちづくりの主体として参加しやすい。
- ・ イベント時など市内大学生（県大、淑徳など）が協力してくれるところ

##### ○活動の場がある

- ・ 人口規模が小さいので諸施設が利用し易い。地元の特定の人が利用し易い。
- ・ 活動できる福祉施設が多いと感じる。
- ・ 手芸サークル、カラーリングを毎月実施しており、活発に行えるところ。発表の場があるのが良い。

#### ○活動への支援がある

- ・ 市役所や社会福祉協議会等相談する所がある。
- ・ 障がい者の福祉団体活動に対し一定の理解や支援があるところ(具体的には、障がい者の通所作業所を設置するなどし、就労支援に努めていることなど)

#### ○活動にやりがいを感じる

- ・ 子ども達と交流することで自分たちも元気をもらっている、ボランティアをしているという感覚はあまりない、これまでのお返しのみ
- ・ 支援する方もはじめは不安そうですが、実際に体験すると、イキイキとして次の仕事を待っておられるような活力を感じる。

#### ○市が発展している

- ・ 住環境が良い。特に、大型スーパーやコンビニがあり買い物に便利。
- ・ 大規模店舗が新たに進出してきているため、外から多くの方が訪れるところ。

#### ○活動や福祉への関心が高い

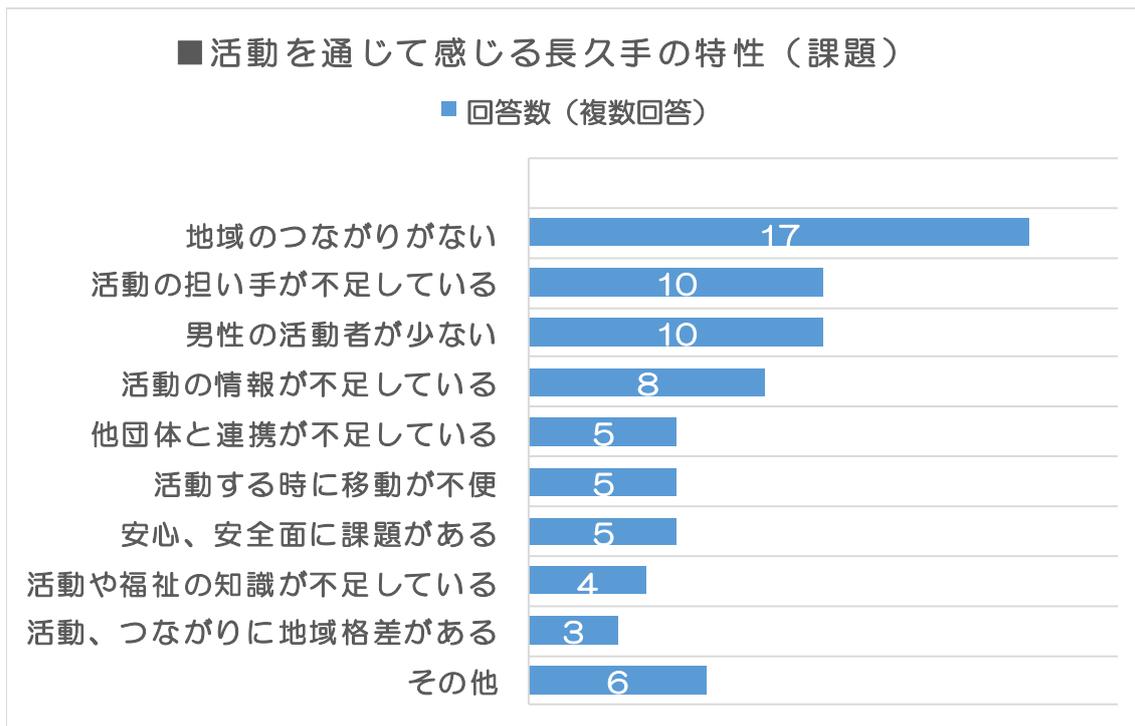
- ・ 福祉への意識の高さ。
- ・ 市内の小学5年生全クラスがシンシアの丘（介助犬訓練センター）を見学してくれらること。

#### ○その他

- ・ 田園・里山・森林が残っている。
- ・ 大規模店舗が新たに進出してきているため、外から多くの方が訪れるところ。

### 問2 活動を通じて感じる長久手の特性（課題）

「地域のつながりがない」が17件と最も多く、次いで「活動の担い手が不足している」、「男性の活動者が少ない」が10件と多かった。



【活動を通じて感じる長久手の特性（課題） 具体的な回答（抜粋）】

○地域のつながりがない

- ・ 今の若い人は自分が求めない地域とのつながりは切る傾向が強い。
- ・ 新しい方が多いからのせいか、希薄さを感じる。
- ・ 便利すぎるので人に頼ることがない、必要性がない。
- ・ 圧倒的に人口比率が高い流入市民の活動の意識が低い。仕事を持つ若い世代には活動する時間が充分取れないのかもしれない。求めるよりまず利用してもらう事を考えるべき。
- ・ 自治会加入率が低下しており、地域のつながりが少ない。

○活動に担い手が不足している

- ・ 新しい人が多いからか、無関心層が多い。コミュニティの核となるものが必要だと思う。地域の核となる人がどれだけいるかが大事。核となる人は肩書きではなく、その人の想いがあるかどうか重要。
- ・ 団体が高齢化しているので、依頼があってもできないことがある。
- ・ 役員の担い手がいない。
- ・ 若手の参加が少なく、全体的に活動団体が高齢化している。

○男性の活動者が少ない

- ・ 男性は誘っても活動に参加しない。
- ・ ボランティアの比率は女性9：男性1の割合なので入りにくいと思うので男性部会などがあると団体に入りやすいのでは。
- ・ 男性は自分で探さないで、興味をもてるような団体を積極的に紹介する必要があるのでは。
- ・ 男性は1人での活動はできるがコミュニケーションが下手なのか、グループに入ることができないように思う。

○活動の情報が不足している

- ・ 様々な団体がボランティアセンター等のホームページに掲載してあるが簡単にはたどり着けない。
- ・ 広報へ情報を掲載しても、意外と市民は見えていない。PRの方法が課題。
- ・ 障がい者の方や行政が、点字サークルの存在を知っている人が少なく、活用がされていない。また、点字サークルは各市町に一つは存在しているが、他市町の状況などを行政が把握していないため、適切に案内されていないと感じる。

○他団体との連携が不足している

- ・ たくさんの市民団体があるが、互いをあまりよく知らない。異年代の交流が少ない。
- ・ ボランティア活動団体の横のつながりが少ないと思う。
- ・ 市内にはさまざまな団体があるが、それぞれの団体と情報共有し、コミュニケーションがとれる場が欲しい。

○活動する時に移動が不便

- ・足が不自由な人はサロンに参加する方法がない、車等で迎えに行く人や手段がない。
- ・車で行けば10分で行ける場所が公共交通機関だと乗換が複雑かつ倍以上の時間がかかる。

○安心、安全面に課題がある

- ・防犯で回っていると空き家が多いと感じる。
- ・香流川沿いに不安定な木などがあり、台風や増水の際など危なくないか。

○活動や福祉の知識が不足している

- ・学校の先生が、ボランティアと奉仕活動違いを理解していない。ボランティア活動などが内申点等に影響するため、子ども達が利益の為に活動に取り組む場合がある。
- ・高齢者と接する経験のない子どもに高齢者への拒否感を感じる。

○活動、つながりに地域格差がある

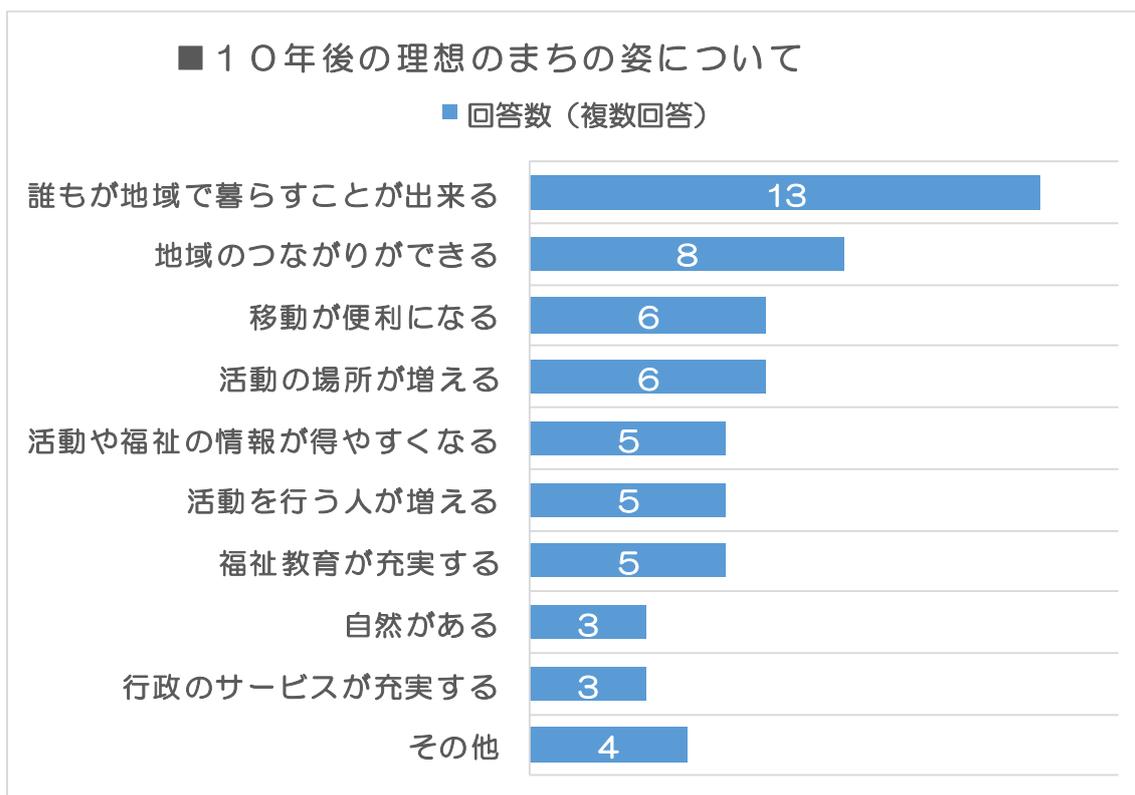
- ・活動や交流に地域差が多く、年齢も感性も活動力においても地域によって差が大きいと感じます。

○その他

- ・働いていないと社会に復帰できていない、働かなきゃいけない感じている母親が多いと思う。

問3 10年後の理想のまちの姿について

「誰もが地域で暮らすことができる」が13件で最も多く、次いで「地域のつながりができる」が8件で、「移動が便利になる」「活動の場所が増える」が6件でした。



【10年後の理想のまちの姿について 具体的な回答（抜粋）】

○誰もが地域で暮らすことができる。

- ・高齢者も子どもも障がいのある人も犯罪から立ち直ろうとしている人もすべての人たちが、安心して暮らしていけるまち。
- ・多世代が混ざり合って共に思いやりながら生活できる。行政、議会、市民、市民団体が手を携え、持っている機能・能力を存分に発揮できる。みんなの顔が見える町。施設しなくても出掛けられる町。
- ・いろんな人が混ざって暮らし、関わり合い、共に生きるまち。小学校は少人数学級。1クラス25人くらい
- ・支援の必要な人を地域住民がみんなで支えあえる近所づきあいがしたい。

○地域のつながりができる

- ・昔ながらの「向こう3軒両隣」を改めて再現してほしい。
- ・岩作と市が洞のように、発展しているところと緑が残っているところがはっきりしているが、もっと住民同士交流が増えるとよい。
- ・地域がつながるような夏祭り・盆踊りを小学校区行いたい。実施することで参加者間で地域での思い出が共有できる。

○移動が便利になる

- ・車がなくても、近隣市町に自由に行け、交流できるようになると良い。
- ・市民が生活しやすいような市内交通機関を整備すると、人が動くようになり文化の家に来る人も増えてくると思う。今のNーバスは目的地まで行くのに乗換えする必要が多く、本数も少ないので不便だと思う。若い人は車移動ができるが、例えば免許証を返納した高齢者などは、外出せずに家に籠ってしまうと思う。

○活動の場所が増える

- ・地域のボランティアが学校に入り込めるように名古屋市のトワイライトスクールのようなふれあう場所ができるといいと思う。
- ・今は、勉強会、講習会はあるが、その後の活躍の場がないので、受けた人が活躍できる場所があるといい。

○活動や福祉の情報が得やすくなる

- ・活動をしている団体に福祉の新しい情報や動きが的確に届くようになる。
- ・行政が常日頃から他市町と盛んに情報交換している。その情報を市民団体にも共有する。

○活動を行う人が増える

- ・パソコンと教えてくれるボランティアグループができるといい。
- ・一番重要なのは人と人とのつながり。人材を育成していくことも重要だと思う。行政はボランティア個人を育成したり、活躍できる場を提供して欲しい。

○福祉教育が充実する

- ・自主的かそうでないかは問わず経験する必要があり授業でボランティアなど地域活

動に携わることがもっと増えるといい。

- ・学校にボランティアに携わる部などがあると子どものころから接する機会ができる  
といいと思う。

○自然がある

- ・田んぼなどの自然を残してほしい。

○行政のサービスが充実する

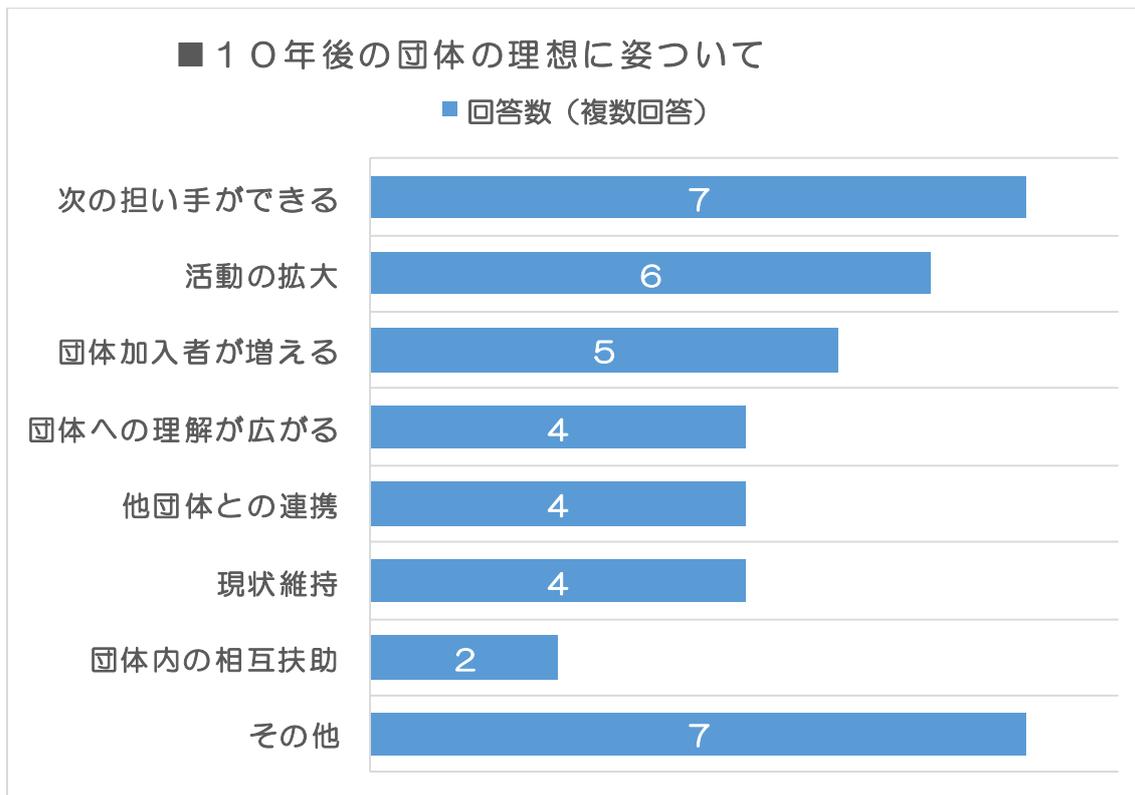
- ・福祉分野に関して言えば様々な問題があり、申請等の手続きも煩雑であるため、福祉のワンストップサービスが実現できているまちであってほしい。

○その他

- ・市民一人一人が長久手に対するプライドを持つようになる。

#### 問4 10年後の団体の理想の姿について

「次の担い手ができる」が最も多く7件、次いで「活動の拡大」が6件、「団体加入者が増える」が5件でした。



【10年後の団体の理想の姿について 具体的な回答（抜粋）】

○次の担い手ができる

- ・役員の担い手となる若い人に入ってもらえるといい。
- ・自分が次の支え手（踊り手）を育てていければと思う
- ・設立から10年が経過しメンバーが高齢化してきている。今後10年を見据え後継者の育成により持続し続ける団体でありたい。

#### ○活動の拡大

- ・古民家などの拠点を増やしたい。
- ・香流川に係るイベントについては市、自治会連合会、共生ステーションなどの支援を受け、さらに若い学生などのアイデアも加え、さらに充実、発展させたい。

#### ○団体加入者が増える

- ・会員数 500 人を超えて、地域に文化でつながる輪が広がっている
- ・地域のテレビ等で活動内容を紹介してもらって加入してもらえる人が増えるといい。

#### ○団体への理解が広がる

- ・「この団体がなくなっているほうがいい」。障がい児等に対して特別な集まりが必要のない社会が理想なので。

#### ○他団体との連携

- ・子どもをキーワードに地域の大人を巻き込んだ活動をしていきたい。

#### ○現状維持

- ・基本は今の状態を継続して活動を続けることができれば良い。そこに新しいものを少し取り入れていくことが理想。他の団体と話をしていると若い人に入ってもらいたいという話をよく聞くが、若い人は若い人で活動している人が多い。そういう人たちが今の私たちくらいの年齢になったときにフレンズに入ってくれば良いと思っている。フレンズは同じメンバーでやっているように見えるが、役員はほとんど変わっている。スタッフ数増減なくやっている。

#### ○団体内での相互扶助

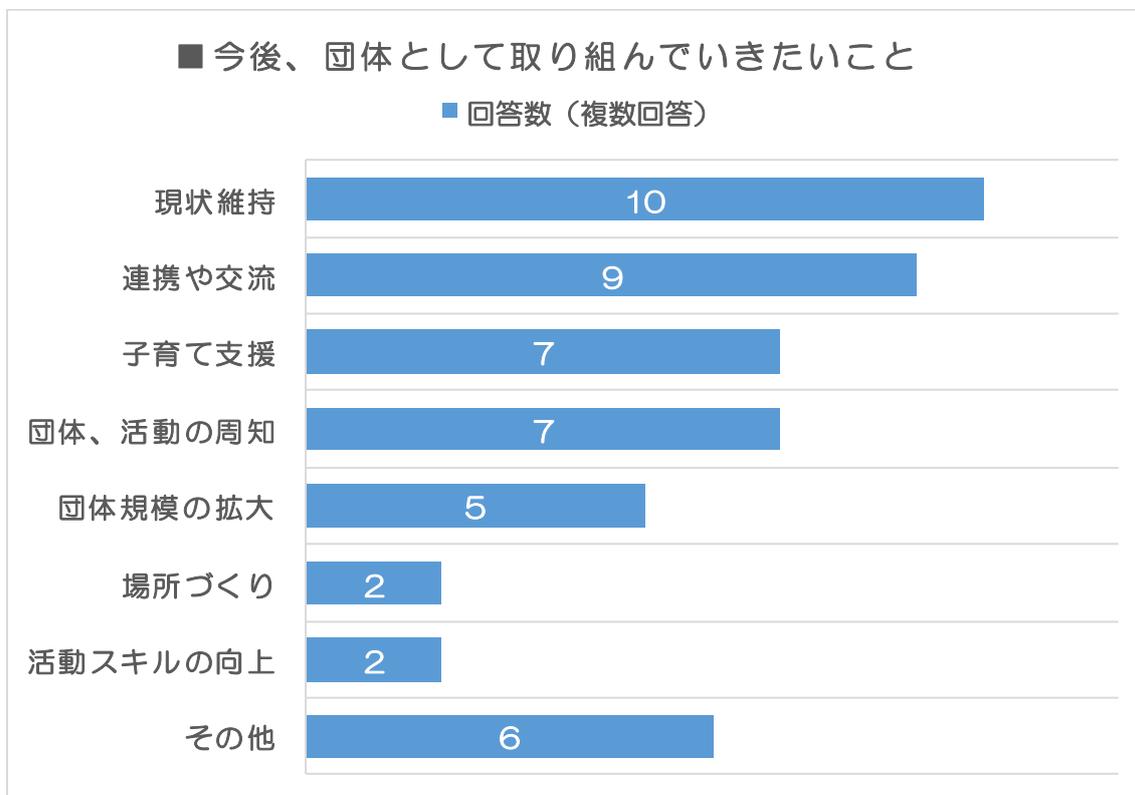
- ・「相互扶助」をより深められるとよい。

#### ○その他

- ・ボランティア部にいた生徒が将来福祉の担い手になってもらえるといい
- ・役割の明確化

## 問5 今後、団体として取り組んでいきたいこと

「現状維持」が最も多く10件、次いで「連携や交流」が9件、「子育て支援」「団体・活動の周知」が7件でした。



### 【今後、団体として取り組んでいきたいこと 具体的な回答（抜粋）】

#### ○現状維持

- ・私達のグループも70才前後なので、今のままボランティアを続けていくことが自分の生きがいにつながるようにやっていきたいです。
- ・小学校等で草取りボランティア活動をしていると子ども達がありありがとうございますと言いに来る、口で話すよりもボランティアをする姿を子ども達に見せていくことの方がよいと思うので続けていきたい。
- ・「継続は力なり」といいますが中々この活動に協力して頂ける方々が出てこないのので何とかしたいと思います。
- ・継続していくのが難しい。とにかく、一回経験してみることが大事。一回経験すれば、二回目、三回目はハードルが低くなるので多くの人にパトロール等の地域活動を経験してもらいたい。団体が、そうして“場”になると良い。

#### ○連携や交流

- ・他団体との連携。例えば民生委員、子ども会、各種ボランティア団体に会の活動を理解して頂き、協働できればと良いと思います。
- ・そして今できつつある、地域共生ステーション、まち協とも協働していただきたいと

考えています。特に子育て支援活動に重きをおいていく考えです。

- ・子育て中のママ、子育て一段落のママ、主婦の方、いろいろな世代の方が交わるような場をつくり、地域のつながり、人のつながりをつくることをめざし、暖かい環境づくりのお手伝いがしたい。

#### ○子育て支援

- ・話を聞くだけでも、育児ストレスに対して取り組んであげたい。
- ・子どもと一緒に遊べて非日常を感じるようにできるようにしたい。

#### ○団体、活動の周知

- ・知らない方一人でも多くの方に整膚を知っていただく。
- ・点字サークルの存在をもっと知ってほしい。

#### ○団体規模の拡大

- ・サークル人員を増やしたい。特に、若い人員を増やしながら、講習会などの手伝いをしていきたい。
- ・行政と継続的に関わって一緒に団体を盛り上げていきたい。

#### ○場所づくり

- ・老人憩の家や集会所などをもっと自由に使用できるしくみにする。
- ・高齢者が気軽に1日中過ごせる場所を市内に、何か所か作りたい。(引きこもり老人をなくす)

#### ○活動スキルの向上

- ・傾聴などの研修会や、それを活かした活動

#### ○その他

- ・あまり町らしくなってほしくない。いつまでも田舎でいてほしい。発展も必要かもしれませんが、故郷を壊してもらいたくないの一言です。